

世界を舞台に成長を続けるTOMOEGAWAグループ営業報告 **第153期 中間報告書**

2011年4月1日～2011年9月30日

TOMOEGAWA BUSINESS REPORT



<http://www.tomoe-gawa.co.jp>

■ ごあいさつ



■ 第2四半期決算の概況

当第2四半期までのわが国経済は、東日本大震災の影響により停滞していた生産活動の一部に改善の兆候が現れたものの未だ本格的な回復には至らず、さらに歴史的な円高にさらされたことなどから、総じて厳しい状況に陥りました。また、海外経済についても、欧州の金融不安、米国景気の減速に加え、これまで好調な伸びを示していた中国などの新興国の経済成長にも鈍化の兆しが現れました。

このような景況を受け、第2四半期会計期間における売上高は、凸版印刷株式会社と共同で進めている液晶ディスプレイ向け光学フィルム関連事業において販売活動を凸版印刷株式会社に集約した影響もあり、178億4千2百万円となり、景気の回復局面にあった前年同期と比べ34億1千7百万円(△16.1%)の減収となりました。

利益面につきましては、コスト削減に取り組むとともに、受注環境に厳しさが増す中で一部の生産設備を休転するなど受注状況に応じて生産調整を実施したものの、売上高の減少に加え、円高の影響を受けたことなどから、特に第2四半期(7~9月)は低調な業績となりました。この結果、次ページ上段の記載の通り、営業利益、経常利益、四半期純利益は、前年同期に比べ、いずれも大幅な減少となりました。

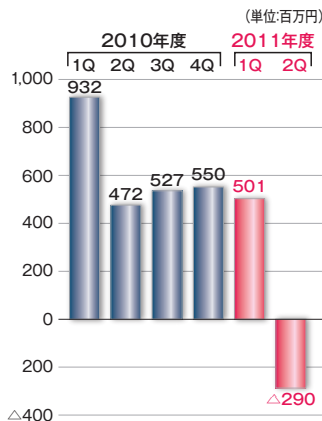
<セグメント情報>

・主力のプラスチック材料加工事業では、高機能分野を中心に展開するフラットパネルディスプレイ関連製品が、ハイエンドモデルのテレビ販売の伸び悩みなどにより受注が減少しました。半導体関連製品は、パソコン需要の低迷等に加え、震災直後の仮需の反動による在庫調整局面を迎えたことなどから、第1四半期(4~6月)後半から受注が軟調となりました。化成品(トナー)は円高等の影響を受けて低調な受

注に推移しました。これに前述した光学フィルム関連事業の販売体制見直しの影響が加わったことから、売上高は112億2千2百万円となり、好調であった前年同期と比べ30億9千6百万円(△21.6%)の減収となり、営業利益も受注減の影響を受けたことなどから1億1千6百万円となり、前年同期比13億7千8百万円(△92.2%)の減益となりました。

- ・製紙・塗工紙関連事業は、塗工紙分野の一部製品がライフサイクルの関係から需要が減少する中で、機能紙分野の新製品が成長したことなどから、売上高は65億7千6百万円となり、前年同期と比べ3億1千5百万円(△4.6%)の減収にとどまりました。営業利益は、新製品の成長に加え収益改善対策の効果が現れたことから1億2千6百万円となり、前年同期比1億1千1百万円(746.3%)の増益となりました。

■ 四半期ごとの経常利益



■ 業績と配当の見通しについて


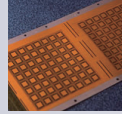

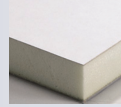
通期の業績予想については、厳しい経済環境が続くことが予測されるものの、本年8月に下方修正した業績予想において、製品受注のサイクルに加え、円高の進行や景気の下振れ等の要素をある程度織り込んでおります。当社グループは、ワールドワイドな拡販活動と効率的な新製品開発により収入の安定・拡大を図るとともに、国内外拠点の連携を図り、生産体制の効率化とコスト削減を推進することで、この業績予想で示した売上高370億円、営業利益10億円、経常利益11億円、当期純利益7億円の達成と、引き続き1株あたり5円の配当の継続を目指してまいります。

代表取締役社長

井上善雄

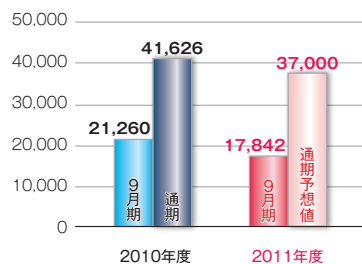
業績ハイライト 2011年4月1日~9月30日

2011年度(第153期)第2四半期累計期間の概況(連結)

売上高	178億4,200万円	前年同期比 $\triangle 16.1\%$	主なセグメント別状況		
営業利益	2億8,600万円	$\triangle 81.6\%$	プラスチック材料加工事業	製紙・塗工紙関連事業	
経常利益	2億1,100万円	$\triangle 85.0\%$	売上高	112億2,200万円	65億7,600万円
四半期純利益	6,400万円	$\triangle 92.9\%$	営業利益	1億1,600万円	1億2,600万円
1株あたり四半期純利益	1円27銭				
			薄型テレビ用部材	QFN用熱硬化型接着テープ	カラートナー
					
					機能性断熱シート (建築用断熱ボードでの使用)

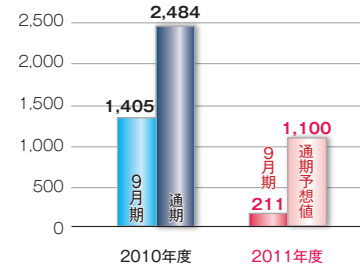
売上高

(単位:百万円)



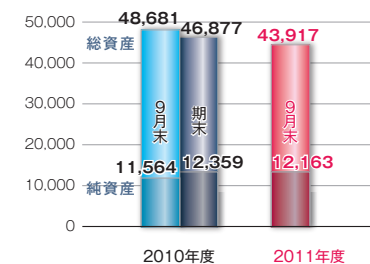
経常利益

(単位:百万円)



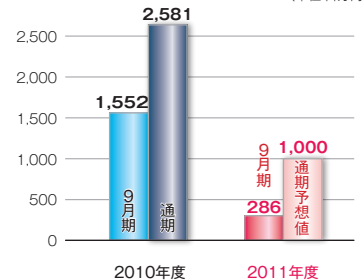
総資産・純資産

(単位:百万円)



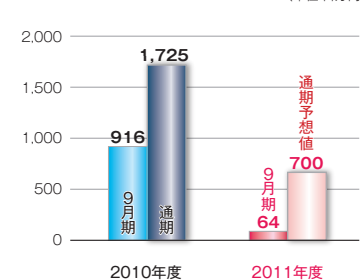
営業利益

(単位:百万円)



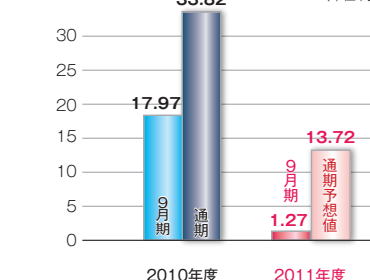
当期純利益

(単位:百万円)



1株あたり当期純利益

(単位:円,銭)



財務諸表の詳細は、当社ホームページをご覧ください

株主メモ

証券コード 3878

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎ 0120-232-711 (通話料無料)

同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

上場証券取引所 東京証券取引所

公告方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.tomoegawa.co.jp>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

1単元の株式数 1,000株

TOMOE GAWA

株式会社巴川製紙所

本 社 〒104-8335 東京都中央区京橋1-7-1

静岡事業所 〒421-0192 静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1

清水事業所 〒424-0831 静岡県静岡市清水区入江1-3-6

大阪営業所 〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

本報告書についてのお問合せ先

経営戦略本部 企画グループ

TEL : 054-256-4319

<http://www.tomoegawa.co.jp>



TOPICS

手帳にもスマートフォンにも当社の技術が
使われております (表紙のご説明)

1984年に販売を開始したトモエリバー手帳用紙は、薄くて軽い上にインクの裏写りが非常に少ないといった優れた紙質が特徴の革新的な手帳用紙です。有名ブランド手帳に採用されるなど、市場から根強い支持を得ております。一方、市場拡大がめざましいスマートフォンでもTOMOEGAWAの高度な技術を活かしたエレクトロニクス関連製品が活躍しています。伝統的な製紙分野、先進的な電子部品の分野のいずれにおいても、当社は保有する技術に磨きをかけお客様のニーズに柔軟に対応することで、さらなる成長を目指します。

フォレストック認定を取得しました

当社が和歌山県、三重県、奈良県及び高知県の地域に所有する森林3,412haを対象に全国で16番目(企業としては14社目)、紙・パルプ業界としては初のフォレストック認定を取得いたしました。この認定は、「生物多様性」及び「森林の管理・経営」について一定レベル以上の評価を有する森林を認定するとともに、その森林が吸収するCO₂吸収量を算定し、第三者への販売流通を可能にするものです。当社は限りある地球環境を守り育て社会とともに歩む、環境とエコロジーを常に意識した企業として、今後とも生物多様性保全に配慮した森林整備を継続的に実施してまいります。



反射防止フィルムにおける事業拡大について

当社は、反射防止フィルム(各種ディスプレイの最表面に搭載され、外光の反射や映り込みなどを抑える光学フィルムのこと、下図参照)の分野における独自開発技術をもとに、凸版印刷株式会社との連携を通じて事業の拡大を図っており、両社で昨年2月に設立した合併会社については重要性が増したことから、今期より当社の持分法適用の範囲に含めております。さらに本年8月には、新たにパナソニック電工株式会社も加えた3社で、この分野における事業提携に合意、新会社を設立いたしました。今回の事業提携により、製品ラインナップの拡充を図るとともに、提携先のグローバル販売網を活用することで、光学フィルム事業のさらなる拡大を目指してまいります。

